レジメン登録フォーマット

申請年月日	平成31年1月15日	使用開始日			
登録診療科	消化器内科・外科	申請医師	福永　睦	化学療法委員会承認年	平成　31 年　2 月
レジメン名	ベクティビックス+FOLFOXIRI				
疾患名	大腸がん	適応の備考	CVポート RAS遺伝子・BRAF遺伝子野生型進行再発大腸がんに使用		
適応分類	進行再発				
1コース日数	14　日間	総コース数	有効な限り コース	催吐性リスク	中等度
抗がん剤投与量・投与日	ベクティビックス6mg/Kg day1、イリノテカン150mg/㎡ day1、オキサリプラチン85mg/㎡ day1、5－FU2400mg/㎡ day1（46時間）				

治療スケジュール ・ 投 与 日 程（ 投 与 日 は ● ）　（day）

投与順	ルート・方法	薬 剤 名	投 与 量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	主ルート	生食20mL	1 本 / body		●													
	中心静脈注射		/															
2	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●													
	中心静脈注射		/															
3	主ルート	生食100mL	1 本 / body		●													
	中心静脈注射	ベクティビックス	6 mg / Kg	60 分	●													
			/															
4	主ルート	生食250mL	1 本 / body	30 分	●													
	中心静脈注射	ホスアプレピタント注150mg	1 本 / body		●													
			/															
5	主ルート	ﾊﾟﾛﾉｾﾄﾛﾝ注ﾊﾞｯｸﾞ0.75mg50mL	1 本 / body	30 分	●													
	中心静脈注射	ﾃﾞｷｻｰﾄ注射液1.65mg/0.5mL	3 本 / body		●													
					●													
			/															
6	主ルート	5%ブドウ糖液500mL	1 本 / body	90 分	●													
	中心静脈注射	イリノテカン	150 mg / ㎡		●													
			/															
7	主ルート	5%ブドウ糖250mL	1 本 / body	2 時間	●													
	中心静脈注射	オキサリプラチン	85 mg / ㎡		●													
	Rp7とRp8を同時に投与開始する		/															
8	側管	5%ブドウ糖液250mL	1 本 / body	2 時間	●													
	中心静脈注射	レボホリナート	200 mg / ㎡		●													
	Rp7とRp8を同時に投与開始する																	
9	主ルート	生食100mL	1 本 / body	46 時間	●													
	中心静脈注射	5-FU	2400 mg / ㎡		●													
		携帯型ﾃﾞｨｽﾎﾟｰｻﾞﾌﾞﾙ注入ﾎﾟﾝﾌﾟ																
	希釈後の液量を総量140mLとなるよう調製																	

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。（例：Rp2とRp3を同時に投与開始する。）

【投与上の注意】

穿刺時、生食を使用し、ポートの通過を確認すること

生食＋ホスアプレピタントは削除可能（その場合は、デキサート注を9.9mg(6.6mgも可）にする）

Rp7とRp8を同時に投与開始する

day1デキサート注は、3.3mgでも可

初回投与時及び嘔気、倦怠感が強い場合はホスアプレピタントと併用してday2にデカドロン錠4mg/day,day3にデカドロン錠8mg/dayの内服を推奨する。

・ﾎｽｱﾌﾟﾚﾋﾟﾀﾝﾄは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生食250mLを使用すること(最低でも100mL以上)。

・ﾎｽｱﾌﾟﾚﾋﾟﾀﾝﾄは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること。

・ﾎｽｱﾌﾟﾚﾋﾟﾀﾝﾄの次に5-HT3受容体拮抗薬+デキサート注を投与して、その次に抗がん剤を投与すること。

ベクティビックス：投与時はインラインフィルター（0．2または0．22μm）を使用すること。投与前後には、ラインを生食でフラッシュする。

ベクティビックス：希釈は生食のみ。

ベクティビックス：最終濃度として、10mg/mLを超えない。

ベクティビックス：投与には60分以上かけること。

ベクティビックス：希釈後6時間以内に使用する。

オキサリプラチン：希釈は5%ブドウ糖液のみ。

UGT1A1遺伝子多型にて＊28homo、＊6homo及び＊28heteroと＊6heteroを同時に有する症例は主治医判断でイリノテカンの減量(125mg/㎡または100mg/㎡)を許容する。